園だより　　１１月号

令和５年１０月３１日
新宿区立西戸山幼稚園
園　長　　佐藤　淳穂

「学校に行くよ」

園長　佐藤　淳穂

　年長組のＡさんが先駆けて帰りの準備をしています。Ａさんは、「Ｂくん、一緒に学校に行くよ。早く支度してね。」と画用紙でミニチュアハウスを作っていたＢさんに声を掛けました。Ｂさんと同じテーブルにいたＣさんは、「Ｂくん、学校行くの？私は 11 月だよ。」と言い、一緒に作っていたミニチュアハウスの中にあるベッドやペットのネコについて私に説明してくれました。

　10月下旬から11月にかけて、小学校入学への準備が始まります。新一年生の家庭に通知が届き、子どもたちは各小学校で実施される就学時健診に参加します。健診の開始時間が早いので、対象の子どもたちは降園を待たずに早退するのです。Ａ さんははりきって園服を着るとかばんを背負い、再び、Ｂさんに「お母さん来るよ。一緒に行くよ。」と誘い、「わくわくするなあ…。」とつぶやきました。Ａさんに急かされたＢさんは園帽子をかぶりながら、「みんな、ばいばい。」と遊んでいる友達に知らせて回りました。

　「Ｂくん、学校がんばってね」と友達が声をかけてくれました。Ｂさんは「ありがと。ありがとさん。」と答えながら上履きを脱ぎました。「もう少し遊びたかった」という思いを引きずっているＢさんでしたが、「ありがとさん」の言葉にうれしい気持ちがにじんでいました。

　二人は担任に見送られながら、お母さんと一緒に小学校に向かいました。幼稚園から小学校への就学には、なめらかな接続が求められていますが、一方で、小学生になるという大きな階段を上る緊張感が自身の成長を促すのも事実です。園でも、この日を大切にして一人一人を送り出しています。幼稚園では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい　10　の姿」※を基本に、個々に応じた指導を重ねています。身辺の自立はもちろん、遊びの中で育まれるあらゆることが小学校生活につながり、これからの人生の基礎になるのです。

　この秋、園で飼育しているオオカマキリとトノサマバッタが卵を産みました。正確に言うと、卵を産んでいるその場に遭遇してしまいました。オオカマキリは飼育ケースの天井部分にお尻を付けて垂直にぶら下がって産卵していました。二本のカマをぐっと折りたたんで胸に引き寄せ、力んでいる姿には胸が熱くなりました。トノサマバッタは、腹部の先を開いたり閉じたりし始めた翌日に産卵しました。バッタが腹部の先端を土の中に入れた瞬間を、近くにいた子どもたちと一緒に共有できたことはまさに奇跡でした。

　この虫たちは卵で冬を越します。小さな命が動き出す春まであと数か月、じっくり遊び、深く考え、友達と力を出し合い…充実した毎日をつくり、子どもたちの学びに向かう力を育んでいきます。

※文部科学省「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」
　(ｲ)健康な心と体 (ﾛ)自立心 (ﾊ)協同性 (ﾆ)道徳性の芽生え (ﾎ)規範意識の芽生え (ﾍ)いろいろな人とのかかわり (ﾄ)思考力の芽生え
　(ﾁ)自然とのかかわり (ﾘ)生命尊重･公共心等 (ﾇ)数量･図形、文字等への関心･感覚　(ﾙ)言葉による伝え合い (ｦ)豊かな感性と表現